

令和元年度第7回 感染症発生動向調査部会
議事要旨

1 日 時 令和元年10月16日(水) 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 入札室(岐阜市柳戸1-1)

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志(岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター 副センター長)
大西 秀典(岐阜大学医学部附属病院 新生児集中治療部 准教授)
澤田 明(岐阜大学医学部附属病院 眼科 講師)
加藤 達雄(国立病院機構長良医療センター 呼吸器内科統括診療部長)
オブザーバー: 加藤 いづみ(岐阜市保健所地域保健課 感染症対策係長)
事務局 : 居波 由紀子(保健医療課 主幹兼感染症対策係長)
中澤 千怜(保健医療課 技師)
田村 直彦(保健環境研究所 疫学情報部長)
岡 隆史(保健環境研究所 主任専門研究員)
酢谷 奈津(保健環境研究所 専門研究員)

4 議 題 (進行:大西委員)

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題、情報提供すべき事項について
- (3) 情報提供(月番委員専門分野から)
- (4) 前回の検討結果を受けた実績等
- (5) その他

5 議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。
(委員からのその他のコメント)
- ・結核患者が、高齢者を除くと20代で多くなっているとのことであるが、主に外国人患者か？
→(事務局)今年報告された20代の結核患者は22例すべて外国人であり、職業は技能実習生や留学生が多くなっている。結核登録者データによると外国人患者の国籍は、フィリピン、中国、インドネシアの順に多い。
- ・侵襲性髄膜炎菌感染症患者の海外渡航歴は？
→(事務局)海外渡航歴はない。

【検討すべき課題、情報提供すべき事項について】

○百日咳

(大西委員)

- ・ワクチン4回接種者でも学童期以降の罹患者が多く、引き続き注意喚起が必要である。
- ・医療関係者に対しても、百日咳の患者発生状況等について、もっと周知が必要と思われる。

○RSウイルス感染症

(大西委員)

・RSウイルス抗原検査の保険適用は、入院例を除き1歳未満の乳児であるため、1歳以上の小児の発生状況は正しく把握されておらず、もっと患者は多いものと思われる。

・一方で臨床現場では、保育所や幼稚園からの指示で、保護者が保険診療外にもかかわらずRSウイルス抗原検査を希望するケースが多い。

・乳児以外は基礎疾患がない場合は重症化する例は少ないことなど、正しい知識の普及も必要と考える。

(事務局)

・県内の小児科定点から今年報告されたRSウイルス感染症患者は、0歳が40%、1歳以上が60%であり、入院・外来の別はわからないものの1歳以上が多い。

(委員からの意見等)

- ・保険適用の有無はサーベイランスの質の担保とは別の視点から検討されたものである。
- ・保険診療に年齢等の制限が設けられるのは、臨床的な意義が低い検査等の実施により社会の医療費負担が増すのを防ぐためである。RSウイルス感染症の場合、乳児や入院例でなければ検査診断がなされても治療法や感染拡大防止対策は変わらない。
- ・一方、サーベイランスデータに影響を与えうることは事実である。そのため、RSウイルス感染症のデータを示す際には、検査診断に保険収載上の制限があるため1歳以上の患者については検査診断できていない例も多く、発生状況を正しく反映していない可能性があることについて注釈を入れるなど、データを正しく理解してもらうように努めることも必要である。
- ・データと一緒に検査の保険適用範囲を示すことも一案と思われる。

【情報提供（月番委員専門分野から）】

- ・「岐阜県子どもの健康を考えるつどい」を毎年10月に開催。
今年にはゲーム中毒をテーマに講演等が行われる。

【保健医療課から情報提供】

(事務局・保健医療課)

- ・厚生労働省からの感染症関連通知、お知らせ等情報提供。